

新規・継続等	新規	分野	主要な道路の整備			事業番号	38	事業名	道路改築(地方道)					
市町村名	うへだし 上田市		ふりがな 箇所名	(主)別所丸子線 鈴子バイパス			事業年度 (完了年度は見込み)	年度～		年度				
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路築造工 L=2,000m W=6.5(10.75)m						H22年度末事業進捗率	0%					
	H23年度以降実施内容	同上						本工事費等ベース	0%					
	H23年度実施内容	-						用地補償費ベース	0%					
	年度	全体事業費		H21年度まで		H22年度		H23年度		H23年度以降				
	事業費計(千円)	950,000		0		0		0		950,000				
財源内訳	国庫支出金	522,500		0		0		0		522,500				
	その他													
	県債													
	一般財源	427,500		0		0		0		427,500				
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価				部	政策評価課				
									ランク	評価	ランク	評価		
	必要性 (25)	計画交通量	10,000台/日以上			1,500台以上～10,000台/日未満		1,500台未満		A	2		2	
		代替道路	唯一の道路である			代替となる道路がある					0		0	
		ネットワーク (道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある			駅やインターチェンジが20km以上にある		駅やインターチェンジに通じる路線でない			5		5	
			通行不能区間・冬期通行規制の解消又は市街地の活性化に資する路線である			山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセスに寄与する		山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない			2		A	
		観光地に通じる道路			観光地に通じる道路ではない				2		2			
		各事業特有の必要性(安全の確保)			5.5m未満又は6.0m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)		5.5m以上6.5m未満(幅員)		6.5m以上(幅員)		4		4	
					歩道未整備区間に歩道を設置		歩道はあるが不十分であるものを再整備		歩道整備無し		4		4	
	小計									19		19		
	重要性 (15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)			県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)		該当なし		6		6		
		設計上の環境配慮	環境配慮がされ現実性が高い			環境配慮がされているが現実性が低い		環境配慮をしていない		B		B		
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置付けられている			緊急輸送路(2次)又は、奥産、雪害、過疎に位置付けられている		特別な位置づけはない		0		0		
		小計									8		8	
	効率性 (15)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上			B/C 1.0～1.5未満		B/C 1.0未満		6		6		
		事業効果の早期発現(H22以降事業年数)	事業年数 5年未満			事業年数 5年～10年未満		事業年数 10年以上		B		B		
		コスト削減	全体的に構造物・規格等についてコスト削減を実施している。			部分的に構造物・規格等についてコスト削減を実施している。		コスト削減はしていない		2		2		
	小計									11		11		
	緊急性 (25)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる			交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる		交通事故や落石等の危険がない		9		9		
		各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所が緩和する			渋滞箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する		渋滞対策ではない		A		A		
			医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)			医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)		医療・福祉の連携に関係ない道路		9		9		
	小計									22		22		
	計画 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い			市町村からの要望		特に要望がない		6		6		
		事業情報の共有	関係者以外に広く周知			関係者中心に周知		特に周知していない		B		B		
		住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加			住民や市町村の意見を計画策定に反映		特に住民意見は反映していない		4		4		
小計									13		13			
費用対効果(B/C)		4.1			評価の合計				B	73		B	73	
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成3年頃より、地元要望を受け、現道拡幅の計画について、地元と協議を進めてきた。その後平成4年度に「上田市圏総合都市交通体系調査」により現在のルートが確立されて、平成8年11月に都市計画決定され、平成11年度より調査に入っている。近隣には前山寺や無言館などの観光施設があるが、現道は幅員狭小で線形が悪く、歩道も未整備であるため、大型車のすれ違いが困難であるうえ、歩行者の安全に支障をきたしている状況である。そのため地域住民からの事業化の要望が強く、通過交通の円滑化及び沿線住民の安全確保のため早期事業着手が望まれている。												
	地域からの要望経緯	平成11年から毎年上田市より早期着工の要望が出されている。また平成14年から毎年、平成20年7月28日に塩田地区連合自治会より早期着工要望が出されている。												
	事業説明等の経緯	平成3年度ルート案について地元と意見交換会を実施した。平成5年度新ルート案を説明。平成7年度測量立ち入り説明会及び都市計画道路(案)の説明を実施。平成11年鈴子バイパス対策委員会が発足し、対策委員会や関係地権者へ事業説明を実施。平成14年に東塩田地区連合自治会へ今後の予定について説明。												
	環境・景観への配慮項目	構造物ではなく、土羽構造による緑化を図り環境へ配慮。												
	他事業・プロジェクトとの関連	上田市環状道路												
	特記事項	今後、事業化に際しては意見交換会を実施予定であり、住民意見を聞きながら細部構造について詰めていきたい。												
	地域の合意形成	全員賛成		概ね賛成		過半数賛成		動向不明		その他				
部意見	必要性、緊急性の評価レベルは高い。今後計画熟度を高め、事業化を検討したい。					政策評価課		意見 必要性は認められる。						